

東京湾アクアラインの恒久的な通行料金引下げに関する意見 書

東京湾アクアラインは、1997年12月に開通し、総延長15km、総事業費約1兆4,400億円に及ぶ夢のプロジェクトである。この道路の開通により、東京・神奈川と半島性が強かった千葉県との地域交流が活発化され、地域経済が相互補完しながら発展するものと期待されていた。しかし、通行料金が極めて高く設定されているため、通行台数が当初の想定を大きく下回り、同時に期待されていた東関東自動車道や京葉道路などの湾岸部の渋滞緩和を図るバイパス機能の役割を十分に果たしていない状況であった。

そこで、平成21年8月からの通行料金800円という大幅に引下げる社会実験が実施され、交通量が格段に増加されました。その効果をさらに高めていくため、国及び千葉県の多大なるご尽力により平成23年4月から3年間社会実験が継続されることとなったことは感謝の念に堪えないところであり、さらなる経済波及効果を期待したところでした。継続された社会実験は、対象車両をETC装着車両とし、普通車800円、大型車1,320円により実験を行ったところ、東京湾の環状線が更に活かされ、主に観光用途として利用されてきた本道路は、物流用途としても利用されることにより、特に全国でも交通量の多い東関東自動車道や京葉道路などの湾岸部の交通混雑の緩和につながり、東京湾の環状線が活かされ、時間・燃料の節約効果により多大なる経済効果を創出し、さらに環境阻害物質の削減にもつながった。そして、東京湾アクアラインを常に利用しやすい料金にすることによって、対岸である神奈川県を始めとした地域間の交流が一層進み、湾岸地域の活性化により通行台数がさらに増加するなど、値下げによる減収額も大幅に逓減していくものと考えられる。

また、加えて平成２４年４月に国内最大級のアウトレットモールが千葉県木更津市にオープンし、平成２５年４月２７日には首都圏中央連絡自動車道の木更津から東金間が開通され、外房地域や東総地域へのアクアライン効果の波及が大きく期待される場所である。

袖ヶ浦市では、アクアラインの着岸隣接地という恵まれた特性を活かしたまちづくりを進めている。当地域を含めた南房総地域はもとより、首都圏全体における交流・連携の強化、物流の活性化、観光振興、湾岸部の渋滞緩和をもたらすなど多くの機能を最大限に発揮させるためには社会実験終了後において、国策としての東京湾アクアラインの恒久的な通行料金の引下げを実現されるよう強く要望する。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出する。

平成２５年６月４日

袖ヶ浦市議会議長 渡辺 盛

内閣総理大臣 様

国土交通大臣 様

千葉県知事 様